

第90期報告書

2014年4月1日–2015年3月31日

株主のみなさまへ

Top Message



株主のみなさまには、
平素より格別のご支援を賜り、
厚くお礼申し上げます。

ここに、当社第90期
(2014年4月1日から2015年3月31日まで)
のご報告を申し上げます。

代表取締役社長

中里 佳明

目次

- 1 Top Message
- 5 連結業績ハイライト
- 7 [特集]SMMとメタルのちから
シエラゴルダ銅鉱山 本格稼働
- 10 トピックス
- 11 連結財務諸表(要約)
- 13 会社情報
- 13 株式状況
- 14 株式メモ

1 第90期連結決算の 概要について

**タガニートHPAL社の本格稼働と円安の影響により、
大幅な増益となりました。**

当期の世界経済は、米国では堅調に推移し、中国も引き続きプラス成長になったことから、総じて緩やかな回復基調となりました。

非鉄金属価格については、ニッケル価格はインドネシアの鉱石輸出規制による供給懸念により期前半は高値で推移しましたが、後半にかけて需要鈍化の懸念により下落しました。銅価格についても、需要懸念から下落傾向となりました。金価格は軟調な推移となりました。

材料事業の関連業界では、スマートフォン向け電子部品、車載用電池向け部材が引き続き好調を維持しました。

このような状況のなか、当期の売上高は、電気ニッケルの販売量の増加、円安の影響などにより前期比11%増加し、9,213億円となりました。利益については、タガニートHPAL社の操業が本格的に開始したことによるニッケル生産量の増加と、円安の影響などにより、営業利益は67%増の1,258億円、経常利益は52%増の1,742億円と大幅な増益となりました。純利益については、ヴァーレニューカレドニア社に対する投資損失引当金を計上したことにより増益幅が縮小し、14%増の911億円となりました。



ニッケル工場(愛媛県)

2 2012年中期経営計画 (12中計)の進捗状況

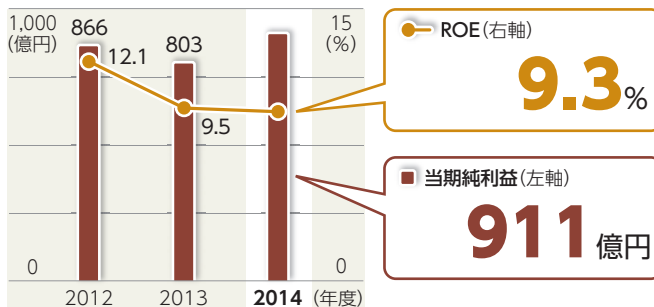
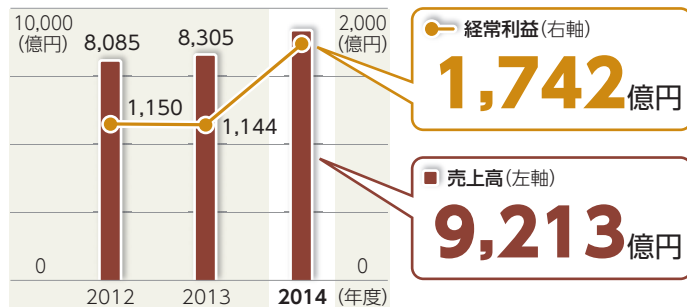
進めてきた成長戦略が実を結び、 ニッケル10万吨体制が完成しました。

2014年度はタガニートHPAL社(フィリピン)の本格稼働、シエラゴルダ銅鉱山(チリ)の操業開始など、長い期間をかけて進めてきたプロジェクトが実を結んできました。タガニートHPAL社は2009年に建設着手、2013年に試験操業を開始していましたが、2014年春ごろから本格的なフル操業体制へと移行し、生産能力どおりの操業を行える体制となりました。タガニートHPAL社ではニッケル中間原料を生産しており、これを処理するニッケル工場の生産量も大幅に増加し、目標としていたニッケル年間10万吨生産体制が完成しました。これらにより、製錬事業の利益は大幅に増加しています。

また資源事業では、2011年に参画決定し、プロジェクトを進めてきましたシエラゴルダ銅鉱山が2014年10月に開山式を行い、生産体制を整えつつあります。

一方、材料事業では、2014年度も安定した利益を計上しました。ハイブリッド車や電気自動車向けの電池材料のほか、スマートフォン向けの結晶材料も大幅に販売が伸びています。

連結業績ハイライト



3 コーポレートガバナンスの 取り組み

社外取締役を1名増員し、
ガバナンス体制をより強化します。

今回の株主総会決議により、社外取締役を1名増員し、
取締役8名のうち2名が社外取締役という体制となりました。
コーポレートガバナンス・コードが制定されており、
当社でも対応をすすめております。

コーポレートガバナンスは当社の成長とリスク対応にお
いて重要と認識しており、今後も強化に努めていきます。

4 CSRの取り組み

「ありたい姿」の見直しを行い、
経営戦略の基盤を担うCSR活動を進めていきます。

当社はCSR活動の目的を「地球および社会との共存」として
います。4月には「2020年のありたい姿」の見直しを行い、
ステークホルダーとの関係をより強化する内容としました。
今後も「本業を通じた社会への貢献」を重視し、着実なCSR
活動を進めていきます。

5 配当方針について

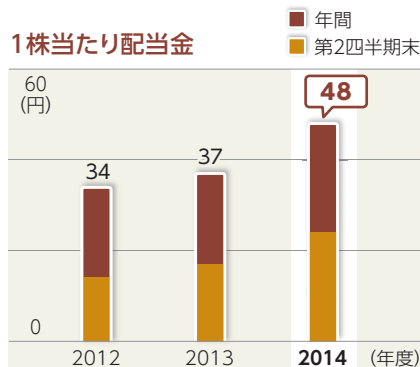
期末の配当金は24円とさせていただきます。

12中計期間の配当性向は25%以上とし、業績連動での
配当を実施する方針としています。2014年度の配当金
は年間48円(中間24円、期末24円)とさせていただき、
配当性向は29%となりました。一株あたり48円の年間
配当は、2013年度の37円を上回り、当社としては過去
最高の配当額となります。

2014年度配当金

中間	24円
期末	24円
年間1株当たり配当金	48円

1株当たり配当金



6 株主のみなさまへの メッセージ

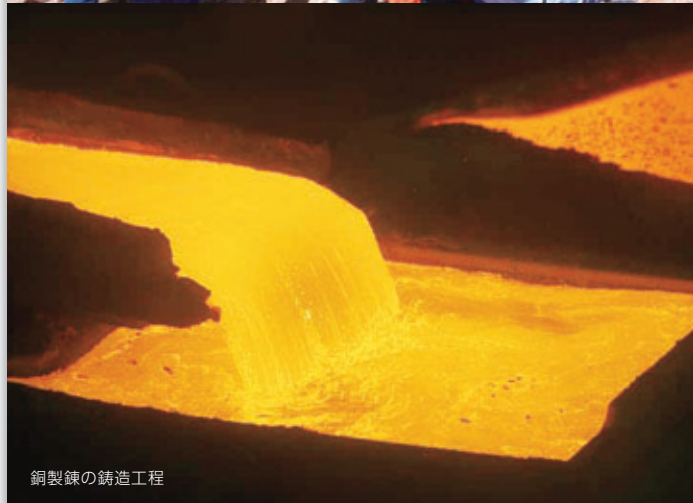
引き続き成長戦略を進めることにより
企業価値の向上をめざしていきます。

2013年から続く円安傾向は当社業績にとって大きな追い風となっています。一方で中国をはじめとする新興国経済の見通しの不透明感があり、それを受け非鉄金属市況は見通しづらい状況が続いています。こうしたなかでも引き続き成長戦略を着実に進めていくことが、企業価値の向上にとって最も重要と考えています。

株主のみなさまにおかれましては、引き続き変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



チリにおける探鉱活動



銅製錬の鑄造工程



結晶材料の検査工程

連結業績ハイライト

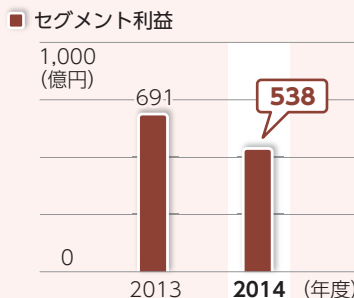
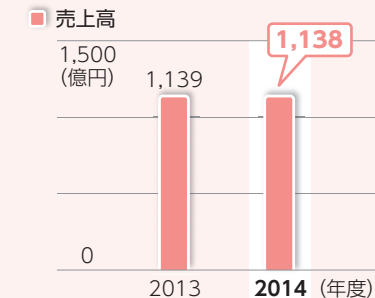
資源セグメント

当期業績概要について

- 菱刈鉱山の操業は順調に推移し、2014年度の生産量は6.9トンとなりました。
- ポゴ金鉱山の生産は順調で、前期並みの生産量となりました。
- 海外銅鉱山では、モレンシー銅鉱山の生産は順調に推移しました。セロベルデ銅鉱山の生産は鉱石品位の低下の影響などにより減少しました。

今後の展望

- 銅では、シエラゴルダ銅鉱山の安定操業をめざしていきます。また、既に権益を保有している銅鉱山の拡張プロジェクトを進めていきます。
- 金では、菱刈鉱山の2015年度の実産量は、7.5トンを目指しています。
- 引き続き、操業中の鉱山の周辺探鉱を推進するとともに、開発案件への参入を検討していきます。

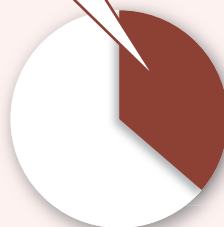


セグメント利益

537.75 億 75 百万円

セグメント利益 構成比

36.3 %



菱刈鉱山 (鹿児島県)

製錬セグメント

当期業績概要について

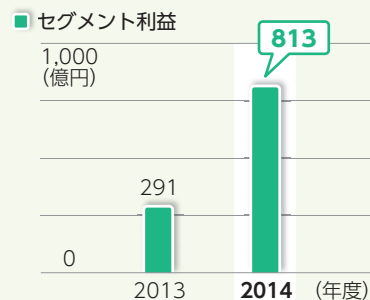
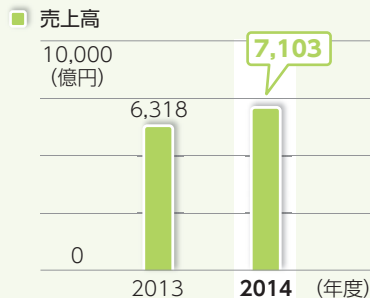
- ニッケル製錬では、タガニートHPAL社の操業が本格的に立ち上がりました。またタガニート産中間原料を処理するニッケル工場でも、生産量が大きく増加しました。コーラルベイニッケル社の操業も順調に推移しています。
- 銅製錬では、定期修繕を行った前期と比べ、生産量が増加しています。

今後の展望

- ニッケル製錬では、引き続きタガニート、コーラルベイのHPALプラントの順調な操業を行っていきます。また、播磨事業所での硫酸ニッケルの増産を進めてまいります。
- 銅製錬では、コスト競争力の強化をはかっていきます。



注) セグメント間の取引が発生しており、当社の売上高として公表している数値はこれを消去した外部売上高の合計です。各事業の売上高、セグメント利益はセグメント間取引を消去する前の金額を表記

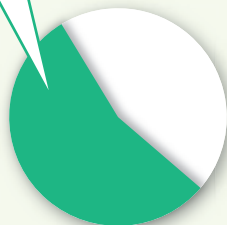


セグメント利益

813 億 **23** 百万円

セグメント利益 構成比

55.0 %



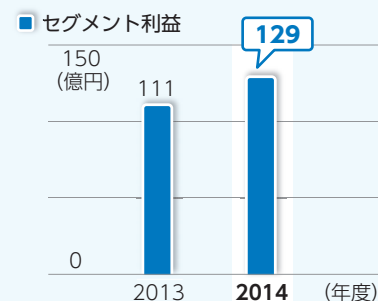
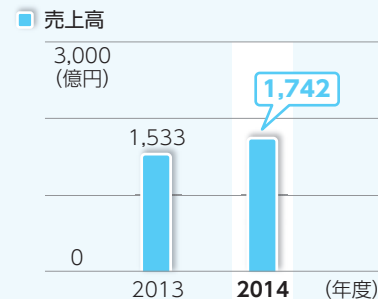
材料セグメント

当期業績概要について

- 電池材料は、車載用電池向け需要が好調だったことから、販売が増加しました。
- リードフレーム、ペースト、結晶材料は、スマートフォン向けなどの需要が好調でした。

今後の展望

- 電池材料は、電気自動車向けニッケル酸リチウムの増産を進めていきます。
- スマートフォン向けとして使われる結晶材料(タンタル酸リチウム基板、ニオブ酸リチウム基板)の増産起業を進めていきます。



セグメント利益

129 億 **14** 百万円

セグメント利益 構成比

8.7 %



磯浦工場(愛媛県)

タガニートHPAL社(フィリピン)

しております。セグメント利益構成比は、3セグメント合計に対する比率を表記しております。

[特集]

SMMとメタルのちから

シエラゴルダ銅鉱山 本格稼働

SMMがチリで運営に参画する、シエラゴルダ銅鉱山が本格的に稼働を開始しました。
今号では鉱山の様子をご紹介します。

シエラゴルダ銅鉱山 オペレーションの様子



オープン
ピット



鉱石の
運搬

■ シエラゴルダ銅鉱山はオープンピット採掘（露天掘り）で行われています。現在のピットの大きさは直径約1,200メートル、深さ約200メートルあります。最終的には直径2,500メートル、深さ900メートルのピットになる計画です。

■ 発破により破碎された鉱石はダンプトラックによって運搬されます。このトラックは積載量300トン、タイヤの直径だけでも約3メートルあります。

シエラゴルダ銅鉱山はチリ共和国北部の標高約1,700メートルの砂漠地帯にあります。近年チリで開発される鉱山の中では、比較的標高が低く、また近くに他の銅鉱山があり、送電線網、幹線道路、鉄道などの社会インフラが整っているなど、操業、物流面でも有利な位置にあります。



ボールミル



浮遊選鉱
工程

- 一度小さく砕かれた鉱石は、ボールミル工程で水(海水※)と混ぜ合わされ、さらに細かな粒子状になるまで粉砕されます。

※シエラゴルダ銅鉱山では、砂漠地帯の限られた地下水源を保護するため、約140キロ離れたメヒヨネスという町にある火力発電所の冷却水(海水)を購入し、パイプラインを使って運んでいます。

- 粒子状に砕かれた鉱石は、浮遊選鉱工程へと送られます。ここでは水に薬品を混ぜ合わせ、発生する細かな気泡に銅を含む鉱物を吸着させます。これによって銅品位は約30%へと高められ、水分を除去した後、銅精鉱として出荷されます。

[特集]

SMMとメタルのちから

シエラゴルダ銅鉱山の概要

位置	チリ共和国第Ⅱ州 アントファガスタ市の北東約140キロメートル
運営会社	Sierra Gorda SCM (出資比率：KGHM社 55%、SMM 31.5%、 住友商事 13.5%)
可採鉱量	約15億トン(硫化鉱のみ)
平均品位	銅:0.4%、モリブデン:0.02%、 金:0.065グラム/トン
含有金属量	銅:約600万トン、モリブデン:約30万トン、 金:約95トン
メインライフ	23年
従業員	約1,300人

世界の非鉄リーダーに向けて

- 当社はシエラゴルダ銅鉱山の権益の31.5%を保有しており、当社のめざす「銅権益年産量30万トン」のうち、約7万トンがシエラゴルダ銅鉱山からの産出で占められる計画です。
- また、当社はシエラゴルダ銅鉱山で生産される銅精鉱の50%の引取権を有しており、東予工場の銅原料の安定確保にもつながります。

フェーズⅡの開発に向けて

- 今回、設備が完成したフェーズⅠでの鉱石処理量は11万トン/日です。今後は、鉱石処理量を19万トン/日へと拡張するフェーズⅡの開発を計画しています。



トピックス 住友金属鉱山の今がわかる、注目トピックスを時系列にまとめてご紹介します。



スマートフォン向け結晶材料の増強を決定

当社はスマートフォン向けSAWフィルターに使用されるタンタル酸リチウム基板・ニオブ酸リチウム基板の増産を決定しました。

SAWフィルターは、特定の周波数の電波を取り出すデバイスで、スマートフォンの高速化・大容量化により1台あたりの使用数が急速に増えています。日本国内の電子部品メーカーが世界のスマートフォン市場で大きなシェアを持っており、当社はそこに使われる基板ではトップクラスのシェアを持っています。

これまでは住鉱国富電子㈱(北海道岩内郡共和町)で12万枚/月の生産能力をもっていました。約75億円をかけて同社に加えて青梅事業所(東京都青梅市)・大口電子㈱(鹿児島県伊佐市)で生産設備を増設し、30万枚/月へ生産能力を増強していきます。

当社は携帯電話の黎明期である約30年前から基板の生産・販売を行ってきました。今後もこの培った生産技術の強みをいかし、さらなる成長をめざしていきます。



住鉱国富電子㈱(北海道)

なでしこ銘柄に3年連続選定

当社は、2014年度の女性活躍推進に優れた上場企業として経済産業省と東京証券取引所が共同で選定する「なでしこ銘柄」に選定されました。受賞は選定が始まった2012年以来、3年連続となります。

当社は、CSR方針の中で「人権を尊重するとともに、多様な人材が活躍する企業をめざす」ことを掲げ、重点的に女性の活躍推進に取り組んでいます。2014年度は、人事部の「女性活躍支援グループ」を中心に、女性社員がより活躍できるような制度づくりを行ったほか、女性社員とその上司の研修を実施するなどさまざまな取り組みを行ってきました。

これからも女性を含め多様な従業員がより働きやすい職場になるよう、取り組みを進めていきます。



女性活躍支援研修の様子

連結財務諸表(要約)

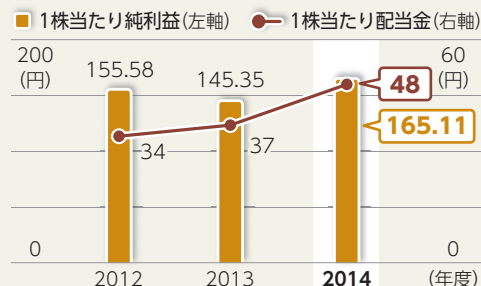
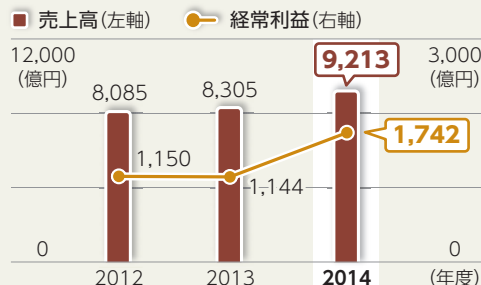
当期の売上高は、電気ニッケルの販売量が増加したこと、また各金属において円安により販売価格が上昇した影響により、前期と比べ908億円増加し9,213億円となりました。

経常利益は、電気ニッケルの販売量増加や円安などにより、前期と比べ599億円増加し1,742億円となりました。

当期純利益は、特別損失として投資損失引当金を計上したことにより、経常利益と比べ増加幅が縮小し、前期と比べ109億円増加の911億円となりました。またROEは9.3%となっています。

売上高
(前期比 10.9%増) **9,213** 億円

経常利益
(前期比 52.4%増) **1,742** 億円



連結損益計算書 (単位：百万円)	当 期 2014年4月1日～ 2015年3月31日	前 期 2013年4月1日～ 2014年3月31日
売上高	921,334	830,546
売上原価	747,077	705,724
売上総利益	174,257	124,822
販売費及び一般管理費	48,478	49,404
営業利益	125,779	75,418
営業外収益	56,291	45,582
営業外費用	7,844	6,648
経常利益	174,226	114,352
特別利益	324	1,286
特別損失	51,289	4,632
税金等調整前当期純利益	123,261	111,006
法人税等合計	45,349	23,623
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△13,201	7,125
当期純利益	91,113	80,258

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位：百万円)	当 期 2014年4月1日～ 2015年3月31日	前 期 2013年4月1日～ 2014年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	120,003	80,014
投資活動によるキャッシュ・フロー	△105,024	△126,937
財務活動によるキャッシュ・フロー	△39,047	81
現金及び現金同等物に係る換算差額	△795	9,715
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△24,863	△37,127
現金及び現金同等物の期首残高	202,583	239,691
連結の範囲の変更に伴う 現金及び現金同等物の増減額	—	19
現金及び現金同等物の期末残高	177,720	202,583

当期末の資産 は、主に円安による海外資産の評価額増加により、前期末と比べて1,679億円増加し1兆7,402億円となりました。

期末の負債 については、利益が増加したことにより未払法人税が増加し、280億円増加の5,813億円となりました。

純資産 については当期純利益の積み上げにより、自己資本が増加したほか、円安の影響によりその他の包括利益が増加しています。

自己資本比率 は、60.4%と健全な水準を維持しています。

総資産

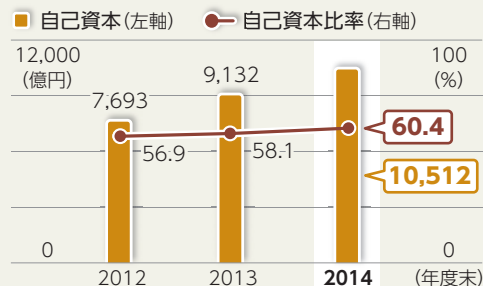
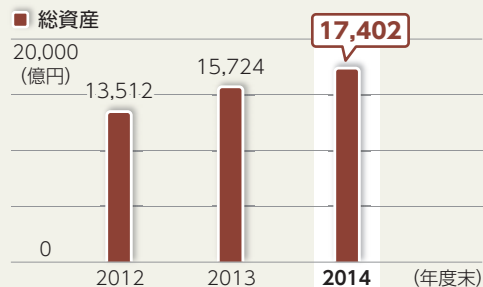
(前期末比 10.7%増)

17,402億円

自己資本

(前期末比 15.1%増)

10,512億円



連結貸借対照表

(単位：百万円)

当期末

2015年3月31日

前期末

2014年3月31日

資産の部

流動資産	545,861	537,961
固定資産	1,194,385	1,034,406
有形固定資産	469,373	415,773
無形固定資産	10,765	11,097
投資その他の資産	714,247	607,536
資産合計	1,740,246	1,572,367

負債の部

流動負債	238,425	223,763
固定負債	342,876	329,551
負債合計	581,301	553,314

純資産の部

株主資本	916,575	852,150
資本金	93,242	93,242
資本剰余金	86,066	86,062
利益剰余金	770,020	704,824
自己株式	△32,753	△31,978
その他の包括利益累計額	134,649	61,021
少数株主持分	107,721	105,882
純資産合計	1,158,945	1,019,053
負債純資産合計	1,740,246	1,572,367

会社情報

■ 会社概要 (2015年3月31日現在)

商号 住友金属鉱山株式会社
Sumitomo Metal Mining Co.,Ltd.
本社所在地 東京都港区新橋五丁目11番3号
創業 天正18年(1590年)
設立 昭和25年(1950年)
資本金 932億円
従業員数 連結:8,766名 単独:2,091名

■ 取締役および監査役

(2015年6月29日現在)

取締役会長 家守 伸正*
取締役社長 中里 佳明*
取締役 土田 直行
緒方 幹信
野崎 明
森本 雅裕
社外取締役 牛嶋 勉
泰松 齊
常任監査役 中重 一雄
(常勤)
監査役 佐藤 元
(常勤)
社外監査役 三和 彦幸
野崎 茂

■ 執行役員

(2015年6月29日現在)

社長 中里 佳明
専務執行役員 土田 直行
緒方 幹信
常務執行役員 橋本 安司
飯島 亨
後根 則文
黒川 晴正
杉浦 卓
執行役員 岡田 功
小田 浩久
角谷 博樹
浅井 宏行
山際 雅幸
森本 雅裕
野崎 明
今村 正樹
朝日 弘
井手上 敦
猪野 和志
安川 修一

注 *印は、代表取締役です。

株式状況

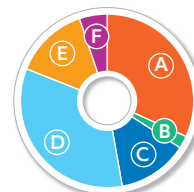
■ 株式の状況 (2015年3月31日現在)

発行可能株式総数 1,000,000,000株
発行済株式総数 581,628,031株
株主数 40,233名

■ 株式分布状況 (2015年3月31日現在)

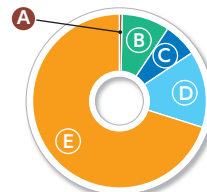
所有者別の状況

区分	所有株数(株)	(%)
A 金融機関	184,824,751	31.78
B 証券会社	13,620,556	2.34
C その他の国内法人	75,956,051	13.06
D 外国法人等	196,813,576	33.84
E 個人その他	80,464,450	13.83
F 自己名義株式	29,948,647	5.15



所有株式数別の状況

区分	所有株数(株)	(%)
A 1~999	1,785,965	0.31
B 1,000~9,999	52,842,827	9.08
C 10,000~99,999	36,354,591	6.25
D 100,000~999,999	82,773,666	14.23
E 1,000,000~	407,870,982	70.13



株式メモ

■ 事業年度

毎年4月1日から翌年3月31日まで

■ 株主総会

定時株主総会 毎年6月

臨時株主総会 必要の都度

■ 基準日

定時株主総会 3月31日

期末配当 3月31日

中間配当 9月30日

■ 株主名簿管理人および特別口座管理機関

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

三井住友信託銀行株式会社

■ 株主名簿管理人事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先)

〒168-0063

東京都杉並区和泉二丁目8番4号

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)

0120-782-031

■ 公告掲載方法

電子公告とする。ただし、やむを得ない事由により電子公告による公告をすることができない場合は日本経済新聞に掲載する。

■ 株式に関するお届けおよびご照会先

証券会社に口座を開設されている株主様は口座のある証券会社宛に、特別口座に口座がある株主様は特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社証券代行部までお問い合わせくださいますようお願いいたします。

■ 単元未満株式買取および買増のご請求について

株主様がご所有の単元未満株式(1～999株)を当社が買取らせていただく制度がございます。また、株主様がご所有の単元未満株式を単元株式とするため、必要な数の株式を買増する制度がございます。単元未満株式の買取および買増請求につきましては、上記「株式に関するお届けおよびご照会先」にお問い合わせのうえ、お手続きをお願いいたします。

■ 配当金のお受け取り方法について

配当金のお受け取りにつきましては、ゆうちょ銀行または郵便局の窓口において配当金領収証と引換えにお受け取りいただく方法のほかに、より安全で確実な方法として、ご指定の銀行口座またはゆうちょ銀行の貯金口座へ継続的に振り込みする方法がございます。また、証券会社に口座を開設されている場合は、証券総合口座等へのお振り込みも可能です。お振り込みをご希望される場合は、上記「株式に関するお届けおよびご照会先」にお問い合わせのうえ、お手続きをお願いいたします。

■ 当社ホームページのご案内

ホームページでも、投資家情報をご紹介しますので、ぜひご覧ください。

<http://www.smm.co.jp/>



当冊子についてのお問合せ先

 **住友金属鉱山株式会社** 広報IR部

〒105-8716 東京都港区新橋5丁目11番3号
TEL.03-3436-7705 FAX.03-3434-2215